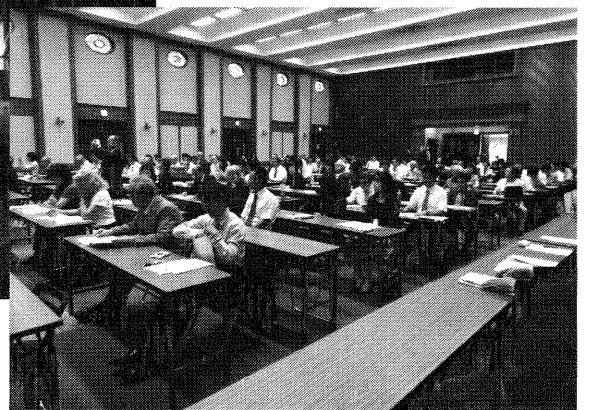


# 平成22・23・24年度宮城県社教連会報

平成24年10月5日 社会教育委員研修会



〔会場風景〕



〔会長挨拶〕

始めに、平成二十二年三月一日発行の「平成二十年宮城県社教連会報」以来の発行となり、多くの皆様にご迷惑とご心配をかけたこと、書面を拝借し心からお詫び申し上げます。同時に、私の記憶に基づきこれまでの経緯を簡記させて頂くことに致します。

思い起こせば平成二十三年三月十一日(金)の午後二時四十六分、県庁分庁舎の六〇二会議室に於いて「平成二十二年第二回理事会並びに地区事務担当者会議」開催中でした。常識外れの大きく長時間に亘る揺れ。私は尋常でない気配を感じ即座に会議中止の判断を行うと共に急ぎ帰路に就いた当時の記憶が未だ鮮明に残っています。丁度二十二年度の事業を集約し社教連会報発行準備に関する内容、そして平成二十三年度事業計画にある東北地区社会教育研究大会(宮城県開催大会)の件について話が及んだ頃でも



「地域への活発な場所は  
社会教育の盛んなところ」

宮城県社会教育委員連絡協議会  
会長 菅原 敏元 (栗原市)

ありました。

一ヶ月後の四月十五日(金)、皆様の境遇も不明のまま臨時理事会を開催させていただきました。ご承知の通り、宮城県社会教育委員連絡協議会の理事会は県内七教育事務所単位にある代表会長及び宮城県社会教育委員の代表一名を含む八名で組織され、この日は石巻地区と気仙沼・本吉地区を除く六地区の理事にご参加を賜りました。そして、あの日に残された協議や前記した平成二十三年度の東北地区大会(公民館大会含む)の開催等、ご意見を拝聴した時の皆様のご境遇と意向内容を改めてお伝えしておきたいと存じます。

最初に理事の皆様のご私的境遇ですが、不参加とならざるを得ない石巻地区、気仙沼・本吉地区さん以外に、大原原(蔵王)地区、仙台(山元)地区、登米地区の理事さんらも自らの家屋や田畑に全壊や半壊という被災を被っているという悲惨な状況でのご参加で

した。更に驚かされた事は、東北大会の開催について事前事務局と想定していた案としては、中止もしくは延期をも視野に入れたいくつかの想定で望んでいた会議でしたが、実際多大な被害にあっている理事の皆様が一様に「こんなときだからこそ私たち社会教育委員は力を合わせて大会を実施すべきだ」という共通のお考えであったという事実です。

しかし、東北大会の実施会場として事前予約を行っていた東京エレクトロンホール宮城の使用が不可能になってきたこと、平成二十三年度に開催を延期して行おうとした場合（東北六県で毎年輪番で実施）次期開催に多大な迷惑がかかる等を考慮した結果、平成二十三年十一月十一日（金）に、唯一何とか借用可能となる仙台メディアテークに開催場所を変更し、平成二十三年度宮城県社会教育委員研修会（兼宮城県・東北地区表彰状授与式）を当初の東北地区研究大会スローガン「つなげよう 広げよう 伊達な心意気」、研究主題「行動する社会教育委員、仕掛ける公民館」というテーマから、「大震災と社会教育―今、社

会教育の果たすべき役割とは」に演題を変更し、一般社団法人全国社会教育委員連合（以下全社連）会長の大橋謙策氏に御講演を賜ると共に、東北大会のスローガンと研究主題を「東日本大震災と社会教育のあり方」をテーマに会場の参加者も含めた討議を関連（県外参加者四十六名を含む二百二十五名の参加者）に開催出来た一日であったことを申し述べます。

また、平成二十四年度ですが、沿岸部は未だ復興の真ただ中にあり何も協力できない自己の非力さを痛感しつつも、「できることを・できるときに・できるところから」を提唱している自分が眼高手低に陥らぬよう再度全社連のご協力の下、去る平成二十四年十月五日（金）宮城県庁二階の講堂に於いて文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」Ⅱ社会教育委員がコーディネートする被災地の学習・交流事業「東日本大震災と社会教育委員」活動実践交流セミナーを兼ねた「平成二十四年度宮城県社会教育委員研修会」を百七十五名の参加者の下に開催出来たこと同時に報告申し上げます。

参加者皆様の感想を総括すると、全社連理事で茨城大学名誉教授でもある菊池龍三郎先生の「ソーシャル・キャピタルを育てる社会教育の意義」という演題から想像すると固いイメージだが「大変具体的でわかりやすく為になった。もっと聞きたかった」という感想や被災地である元東浜地区災害対策本部長（社会教育委員経験者であり被災後自ら本部を立上げ現在に至る）豊島富美志氏ご本人から現地の常態を聴けたことが大変良かったという多くの参加者アンケートも頂いております。同時に、本事業に関する報告出版物には、石巻市社会教育委員の木村美保子さんの「横のつながりを生かす」。女川町社会教育委員の会・議長の千葉幸喜さんの「女川町へ帰ろう、そして」。気仙沼市社会教育委員、星美保さんの「社会教育の経験を生かす」。山元町社会教育委員長（前理事）、渡邊正俊さんの「避難所のコーディネート」等、四人の皆様が率先し、元気に活躍なされている内容がしっかりと掲載されていました。

付け加えて、事務局職員の皆様も通常業務以外に公的施設の被災状況や利用調査等の

緊急事案が増え、会員皆様への原稿依頼の要請や請求のさえも出来る状態ではなく、諸般大変なご苦労をなされ現在に至っております。本会報発行の遅れた事情もご賢察のうえ、何卒寛大なご理解を賜りご容赦くださいますようお願いを拝借し重ねてお願い申し上げます。

さて、序文が少々長くなっ

てしまいましたがこのように東北の被災地県としてややもすると社会教育委員の動きが止まってしまうかもしれない現状をしっかりと歯止めをかけ、今後の社会教育環境を向上するためには何か必要なのかを再考しましたが、現会長を拝命した当時の（平成二十一年度）会報で私が述べている「二十一世紀の社会教育委員は名誉職型・指定職型から自己活動型への変革が必要であると同時に、社会教育行政も専門的アシスト役がより必要である事実を再確認し、地域に見合った生涯学習社会を構築できる環境を率先して互いに構築（提案）しなければならぬ時代であると思う。地域づくりの活発な場所は社会教育の盛んな所であることを確信する。」ではないかと思

います。

私がこのことを確信するに至る原因の一つに、一九九五年一月十七日の阪神・淡路大震災の被災者であった皆様で組織されたNPO法人まちづくり神戸・地域人権連神戸人権交流協議会の皆様から寄せられた「東日本大震災被災者への伝言」があります。その内容は「阪神・淡路大審査の教訓から仮設自治会をうまく運営する十ヶ条」というものでありました。（昨年の研修会に参加出来なかった皆様に改めて簡単にここにご紹介を致します。）

・第一ヶ条 声かけ、あいさつをする。・第二ヶ条 よく話し合いをする。・第三ヶ条 ニュースを出す。・第四ヶ条 会費を集金する。・第五ヶ条 集会所にはいつも誰かが居る。・第六ヶ条 共有財産をつくる。（花壇や畑のこと）・第七ヶ条 みんなで酒を飲む。（飲めない人はお茶で付き合う）・第八ヶ条 手作り料理をみんなで食べる。・第九ヶ条 季節ごとの行事を大切に。（花見、盆踊り、祭り等）・第十ヶ条 サークル活動を活発に行う。（ダンス、カラオケ等）がそうである。

そして、同時に私は藤本義

「一さんが行っていた『百円塾』が当時多くの子どもたちの救いの場になっていたことが走馬灯のように脳裏を掠め、休日となると自然に自分の足が勝手に被災地に向かっていったことを思い出します。ちなみに今は何を支援してるんですか？とよく聞かれますがこのように答えます。「飲み会交流しています」と。

最後に、是非皆さんに紹介したいコラムがあります。それは…。

3・11から間もなく一人のベトナム人記者が取材で被災地に入った。避難所で少年にインタビューする。少年は津波で両親を亡くし、激しい寒さと飢えで震えていた。一つのおにぎりを家族で分けて食べるような状態だった。

記者は見かねて少年に自分のジャンパーを着せかける。その時ポケットから一本のバナナがぼろっとこぼれ落ちた。記者が、「バナナ、欲しいか」と問うと、うなずくので、手渡した。ところが少年はそれを食べるのではなく、避難所の片隅に設けられたみんなが共有の食糧置き場に持って行き、もとの場所に戻ってきたという。

記者はいたく感動する。帰

国すると、(こういう子どもはベトナムにはいない...)と報道した。...とありました。

来年度、我が宮城県社会教育委員連絡協議会は創立50周年を迎えようとしています。こんな諺を聞いたことがあります。「親から受けた恩は次の世代を育てて行くことで返して行ける」と。社会教育も同じではないでしょうか。社会教育を通じ、私たちの行動から豊かな未来社会と人材を築いて行くのではありますんか。「出来るからやるのではなくやるから出来る」を信じて。

結びに、会長さん研修会当時の写真をお持ちではありませんか？と聞かれましたが残念ながら持ち合わせがありません。代わりに、私の中学時代の先生(和尚さんでした)が社会の時間に教えてくれた「合掌する」ということは、手と手のしわを合わせる事で自分や他人の幸せを希い願うという意味があるんだぞ」という私の大好きな言葉「合掌」を添えて終筆したいと思いません。



頓首

## 平成二十二年 宮城県社会教育委員研修会

平成二十二年九月二十八日(火)、平成二十二年宮城県社会教育委員研修会を、県内各地の社会教育委員会を中心に社会教育関係者百九十名を迎えて開催しました。

開会行事では、宮城県社会教育委員連絡協議会 菅原敏元会長と宮城県教育庁生涯学習課 高橋弘一社会教育専門監から挨拶をいただき、その後、宮城県社会教育委員連絡協議会の表彰式が行われました。平成二十二年受賞された十五名の方々は次のとおりです。

- |      |         |
|------|---------|
| 白石市  | 佐藤 晴代 様 |
| 柴田町  | 相澤 和子 様 |
| 柴田町  | 小嶋 弘子 様 |
| 大河原町 | 高橋 邦夫 様 |
| 七ヶ浜町 | 遠藤 力 様  |
| 名取市  | 熊谷天津子 様 |
| 名取市  | 佐々木洋子 様 |
| 栗原市  | 大内 恵子 様 |
| 栗原市  | 後藤 和廣 様 |
| 栗原市  | 後藤 勝行 様 |

- |      |         |
|------|---------|
| 石巻市  | 平塚 洋子 様 |
| 石巻市  | 永沼 紀男 様 |
| 石巻市  | 小野 幸子 様 |
| 東松島市 | 石森 和之 様 |
| 東松島市 | 高崎 恵子 様 |

この表彰は、各地区で長年(六年以上)社会教育委員として活躍された方、宮城県社会教育委員連絡協議会の役員を四年以上務めた方、また、特に宮城県社会教育委員連絡協議会の発展に寄与された方で、各地区社会教育委員連絡協議会または市町村教育委員会から推薦を受けられた方に贈るものです。本県の社会教育の推進に大いに貢献された御功績に対し、深く感謝申し上げます。

### 講演

国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの服部先生をお招きして、講演会を開

催しました。

演題 「地域を活性化する社会教育委員の役割」

講師

国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター センター長 服部 英二 氏

千葉先生は、地域を活性化(元気に)するために、今求められている県内の社会教育委員や社会教育関係職員等の関わり方について、また、特に社会教育委員としての役割にはどんなものがあるのか、どんなアクションを行政や住民に対して起こしていったら



いいのかについてお話しただきました。

問われる具体的な実践としては、一点目には、ネットワークづくりの観点から、各々の特色を生かした相互連携、行政のコーディネート機能、学社連携による人づくりが重要であることが示されました。

二点目として、地域づくりの観点から、学校を核にした地域の教育力の創生、地域コミュニティの活性化、学びの循環、文化の継承伝承、住民相互の学び合いが求められていることが示されました。地域を活性化するため貴重な示唆をいただき、さらには「協働教育」の視点についても有効な手だてを教えていただきました。

### 事例発表 I

午後は、利府町から実践事例を発表していただきました。

### 演題

「地域教育力の向上」  
学校・家庭・地域住民の  
連携・協力のあり方

発表者

利府町教育委員会

生涯学習課

生涯学習振興班長

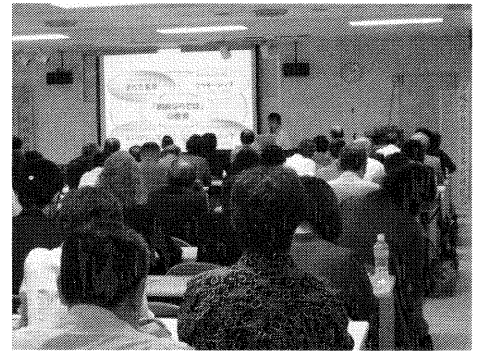
(社会教育主事)

蛭名 博人 氏

## 平成二十三年 宮城県社会教育委員研修会

平成二十三年十一月十一日  
(金)、平成二十三年宮城県社会教育委員研修会を、県内外から社会教育委員を中心に社会教育関係者二四〇名を迎えて開催しました。

平成二十三年三月十一日(金)に発生した「東北地方太平洋沖地震」は本県に未曾有の被害をもたらした。当該年度に主管開催する予定であった「東北地区社会教育研究大会」はその中止を余儀なくされました。



そのような状況で、社会教育こそ地域づくり・絆づくりの基盤であるとの思いを強くし、県内社会教育委員と事務担当者で連携して、例年より一カ月遅れで開催に漕ぎ着けました。

開会行事では、宮城県社会教育委員連絡協議会 菅原敏元会長と宮城県教育庁生涯学習課 高橋弘一社会教育専門監から挨拶をいただき、その後、宮城県社会教育委員連絡協議会表彰及び東北地区社会

教育委員連絡協議会表彰が行われました。平成二十三年宮城県表彰受賞された方々は次のとおりです。

- 白石市 保科 正信 様
- 白石市 麻生菜穂美 様
- 村田町 赤間 好郎 様
- 利府町 酒井 隆志 様
- 大和町 鈴木由紀子 様
- 大和町 高橋 榮次 様
- 登米市 相澤 圭治 様

この表彰は、各地区で長年(六年以上)社会教育委員として活躍された方、宮城県社会教育委員連絡協議会の役員を四年以上務めた方、また、特に宮城県社会教育委員連絡協議会の発展に寄与された方で、各地区社会教育委員連絡協議会または市町村教育委員会から推薦を受けられた方に贈るものです。本県の社会教育の推進に大いに貢献された御功績に対し、深く感謝申し上げます。

### 講演

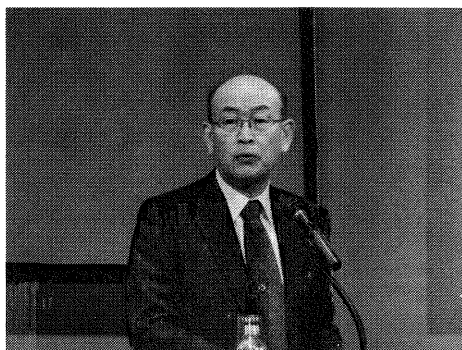
一般社団法人全国社会教育委員連合の大橋先生をお招きして、講演会を開催しました。

### 演題

「東日本大震災と社会教育のあり方」

### 講師

一般社団法人  
全国社会教育委員連合  
会長 大橋 謙策 氏



大橋先生は、東日本大震災の発生により「社会教育」に投げかけられたいくつかの問題点を検証するとともに、社会教育委員の果たすべき役割、そして今後の社会教育のあり方について提言されました。講演内容は三つの視点「大震災と社会教育の課題」「自然共生文化と高度経済成長がもたらしたもの」「地域づくりに欠かせない住民の学習・

参加と社会教育の役割」でお話いただきました。

特に三点目の、「地域づくりに欠かせない住民の学習・参加と社会教育の役割」では、

地域主権改革関連法の成立と三つの主体形成（近隣関係を大切にした地域づくり、地域におけるマイノリティ問題を排除しないソーシャルインクルージョンの地域づくり、行政計画への参画能力をもつ主体形成）などについて資料を基にとでも分かりやすく講義いただきました。これを踏まえて、三つの主体形成に関わる社会教育行政と社会教育委員の役割についてその具体を講義いただき、今後の求める姿を教唆していただきました。

**パネルディスカッション**

午後は、パネルディスカッションをして意見交換を行いました。

テーマ

「東日本大震災と

社会教育のあり方」

コーディネーター

宮城県社会教育委員

連絡協議会

会長 菅原 敏元 氏

パネリスト

TBCアナウンス学院

学院長 森 雅一郎 氏

桜士(さくらもののみ)の会

代表 鎌田 清 氏

女川町教育委員会

生涯学習課

主任主査

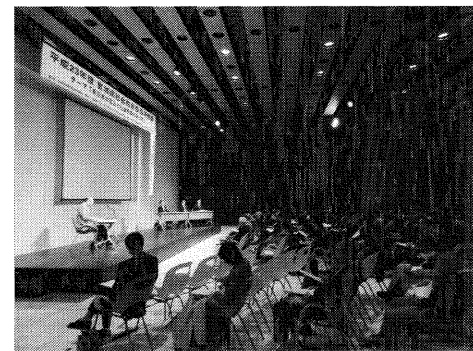
色川 洋二 氏



動に携わる三名のパネリストによる報告をもとに、会場参加者も含めた意見交換を行いました。

森氏からは「本来の人間の生きる能力、生き延びる能力、危険を回避する能力を得るための知恵や直感力などの力を年代を超えて地域で教えあい、学びあい、支えあっていくことが地域力や社会力を育て、身につけ、高めることになるのではないのか。」という意見をいただきました。

鎌田氏からは「この震災に、本物のボランティアの姿が見られたと思っている。『してあげる』というボランティアではない、『しなければ』という人間としての純粋な感情が



中止となった東北地区研究大会のスローガン「つなげよう 広げよう 伊達な心意気」、研究主題「行動する社会教育委員、仕掛ける公民館」を視

らの動きだしに、活動を通して人間というものを改めて考えさせられている。」ということに基づいた活動についてお話いただきました。

色川氏からは、被災地での学びの場としての取組の具体を、プレゼンテーションソフトを用いて分かりやすく説明していただきました。

**平成二十四年度 宮城県社会教育委員研修会**

平成二十四年十月五日(金)、

平成二十四年度宮城県社会教育委員研修会を、県内外から

社会教育委員を中心に社会教育関係者百八十名を迎えて開催しました。

本事業は、文部科学省委託「学びを通じた被災地の地域

コミュニティ再生支援事業」社会教育委員がコーディネーターする被災地の学習・交流事業「東日本大震災と社会教育委員」活動実践交流セミナーと合同開催しました。

東日本大震災被災地における地域コミュニティの再生を願う、社会教育委員や社会教育関係の委員および職員等が

参加して、被災地(者)の復興支援の実際活動や今後の方

途などについて、体験と情報交換する機会とすることを目的に開催したものです。

開会行事では、宮城県社会教育委員連絡協議会 菅原敏元会長と宮城県教育庁生涯学習課 小畑幸彦社会教育専門

監から挨拶をいただき、その後、宮城県社会教育委員連絡協議会表彰が行われました。

平成二十四年度受賞された方々は次のとおりです。

- 角田市 川上 朋子 様
- 角田市 小嶋 圭吾 様
- 角田市 佐藤 文男 様
- 蔵王町 村上 新一 様
- 蔵王町 佐藤 敏子 様
- 蔵王町 金峯 照美 様
- 丸森町 八島 比呂 様
- 塩竈市 小泉 勝彌 様

名取市 榊井 庸彦 様  
 多賀城市 成田 和子 様  
 多賀城市 菊池すみ子 様  
 岩沼市 布田 吉昭 様  
 利府町 伊藤 富雄 様  
 利府町 石川 一美 様  
 大郷町 赤坂 正夫 様  
 富谷町 金澤 知江 様  
 大衡村 遠藤 淑子 様  
 大崎市 畑中理一郎 様  
 大崎市 山田 弘志 様  
 大崎市 大友 紀 様  
 大崎市 石川ちづ江 様  
 涌谷町 渡邊 彰子 様  
 加美町 松本 憲 様  
 加美町 澁谷 傳 様  
 女川町 千葉 幸喜 様  
 女川町 鈴木 政人 様

この表彰は、各地区で長年(六年以上)社会教育委員として活躍された方、宮城県社会教育委員連絡協議会の役員を四年以上務めた方、また、特に宮城県社会教育委員連絡協議会の発展に寄与された方で、各地区社会教育委員連絡協議会または市町村教育委員会から推薦を受けられた方に贈るものです。本県の社会教育の推進に大いに貢献された御功績に対し、深く感謝申し上げます。

**講演**

一般社団法人全国社会教育委員連合の菊池先生をお招きして、講演会を開催しました。

**演題**  
 「ソーシャル・キャピタルを育てる社会教育の意義」

**講師**

一般社団法人全国社会教育委員連合理事  
 茨城大学学長名誉教授

菊池 龍三郎 氏

かつて日本社会を紡いできた「地縁」「血縁」といった地域や家族・親類との絆を失っていったのに加え、終身雇用制度が壊れ、会社との絆であった「社縁」までが失われたことよって「無縁社会」化している一方で、東日本大震災の体験からは、「ソーシャル・キャピタル」が厚く、労りと優しさの源になっているとして、講演いただきました。菊池先生は、ソーシャル・キャピタルの概念として、信

頼、互酬性、ネットワーク(絆)で形成されていることや、それに影響・効果を及ぼすもの、そして、それを踏まえた学びによる「新しい公共」を考えるための前提について教唆していただきました。

最後に、社会教育委員は地域住民の学習環境づくりに貢献しながら地域の「学風」を創り出す役割があることや、大震災後の社会教育・生涯学習はソーシャル・キャピタルの厚い社会づくりにつながる活動を目指すべきであること

を提言していただきました。

**現地報告**

テーマ  
 「被災地の『いま』」

**報告者**

元石巻市東浜地区  
 災害対策本部長  
 豊島 富美志 氏

豊島氏からは、すべて原稿なしでありのままの姿をお話しいただきました。経験にもとづいた発言・説明は迫力があり、また、生の声がひしひしと伝わり、多くの参加者が

感銘を覚えていたことが、事後のアンケートに記述されていました。

**シンポジウム**

テーマ  
 「社会教育委員が取り組む被災地の地域づくり活動」

**シンポジスト**

岩手県社会教育連絡協議会  
 会長 大橋 清司 氏  
 福島県市町村社会教育委員連絡協議会  
 会長 中島 功 氏

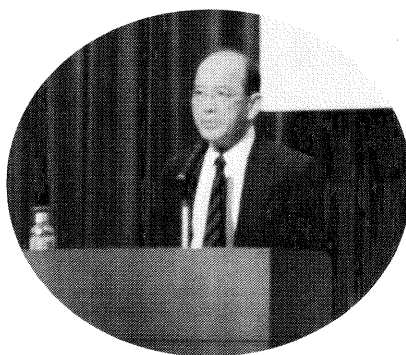
元石巻市東浜地区  
 災害対策本部長  
 豊島 富美志 氏

**コーディネーター**

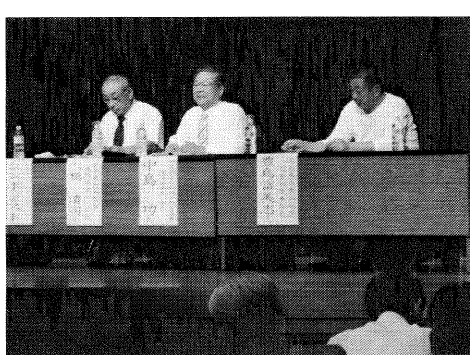
宮城県社会教育委員  
 連絡協議会  
 会長 菅原 敏元 氏

津波被災地の現場の生の活動を、実践者である豊島氏に話していただいたことを始め、岩手県・福島県から社会教育委員組織の会長をお招きし、本県含め三県の実情を踏まえ

た意見交換が出来ました。被災地の思いを知り、また、共有することができ、地域を復興させるのはやはり地域の人間であり、その強い意志なのだということを再確認できました。行政や社会教育は、それを強力に支援していく存在でなければならぬということとを共感することができました。



講演 菊池龍三郎 先生



[シンポジウム] シンポジスト 3 氏

# 全国社会教育連合

## 表彰おめでとうございます

### 二十四年度

#### 全国社会教育連合会より の受章を受けて

大衡村社会教育委員

齋藤 裕



宮城県唯一の村に住み着いて四十年になり地域の方々には色々ご指

導をいただき、大衡村民として育てられましたことに感謝をしております。この度の全社連よりの受章の知らせをうけ、自分対象になったのかと驚きと困惑の数日を過ぎ、結果となりましたが、覚悟を決め山梨県甲府市へ向いました。大会当日式典前段で受賞セレモニーを行い、開会式スタートと思っておりましたが、ステージはアトラクションから始まり驚きました。躍動感に溢れる力強い演技には

大きな感動を覚え、大会へは参加出来なかったことが残念に思っております。

この度の受章については自分の努力の結果でないこと、なく事務局のご指導と県・郡・市の社教委員の先輩諸兄の皆さんからのご指導ご協力の賜物と思っております。

二十一年間の大衡村社教委員として何とか過ぎて来ましたが、多少納得してない事例があり申し上げさせていたいただきます。

社教委員の活動の範囲についてですが、今日まで年三四回の会議への出席のみであり、教育委員会との意見交換会が殆ど行われてない様に思っています。

社教委員にも自己研鑽が必要と思っております。事務局へも会議の招集の作業があり忙しいことですが、事前に当日の会議資料の内容の打

ち合わせも必要であると思えます。

大衡村社会教育委員として、社会教育活動の推進に貢献できる様、今後とも努力していきたいです。

#### 全国社会教育委員 連合表彰を受けて

元塩竈市社会教育委員長

柴田 仁市郎



東日本大震災から一年半が経た、昨年初秋に表彰の通知を受けまし

た。

当方も全壊の津波被害を受け、この地域も震災の深い爪痕からの復旧復興に立ち向かっているときでもありましたので、昨年十月に甲府市で行われた表彰式に出席することは叶いませんでした。しかし、このような時期でもありませんので、受彰の栄に浴するこ

お支えを戴きました関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

私が社会教育と関わったのは昭和六十一年から市の体育館で地域の子供達に柔道を指導したのが始まりです。当時は、「鍵っ子」という言葉が流行したように、夫婦共働き

の家庭で、下校した子供達が一人自宅の鍵を開け、買い与えられたテレビゲームで時間を過ごすということが増えて

いました。バブル最盛期の頃は、子供達が元気に遊び回る場所も無く、友達も居ない状況を知った私は、この子供達のために出来ることを考えたとき、長年修業した柔道で接

することに致しました。強い選手やチームを作ることを目的とはせず、稽古を着て畳の上で思いっきり体を動かして汗を流す環境を作ることが必要との思いで指導しました。子供達が取っ組み合っ

て遊ぶ、あの感覚です。子供の本来の笑顔が見られた気がいたしました。

以来、子供達と共に生涯学習を体験しながら今日に至って居ります。将来の社会を担う大切な子

供達に正面から向き合う必要性と、家庭、学校、社会の三位一体の連携した教育の重要性を改めて考えさせられています。

#### 教育の根底を捕まえて 新しい社会教育の 創造を考える。

前大崎市社会教育委員

板垣 實



平成二十四年度、全国社会教育委員連合会長表彰の栄を賜わり身

に余る光栄であります。厚く御礼を申し上げます。

東日本大震災から二年を迎えました。十二日、志津川、雄勝、大須、船越、女川、石巻の被災地を訪ねて来ました。漂流物は片付けられ、土台だけの土地は荒涼としていました。

浜辺では、お母さんたちが「わかめ」の選別をされていました。会話の中で笑顔が見られ、一所懸命に鎌を動かす姿に活気を取り戻していました。海原は静かに光を反射させて

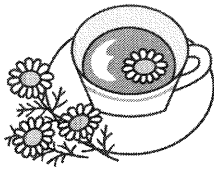
いました・大津波を受けた校舎は、窓が破れ、カーテンが揺れて淋しく感じました。全ての児童生徒が安心して教育を受けることが出来る様に社会全体で教育環境や教育方法を工夫して来たと思えます。

しかしながら、社会の経済情勢の急変から所得の格差や生活と仕事に対する努力や挑戦意欲の減退とか自然災害、環境問題、高齢化、少子化、児童の虐待、いじめ等児童生徒をめぐる問題や社会問題が私達の身近にあります。

人間の教育は、訓育、教化、開化、徳化の考えが根底にあります。人間は人格を持つだけではなく、他人の独自性を尊重しなければなりません。従って、一つに自分への関心を高め、二つに他人への関心を高め、三つに世界の最善に対する関心を高める必要があります。

これらを解決するためには、地域社会の方々と絆を深め、学校・家庭・地域の連携による支援活動を進め、地域の人材育成と教育力の向上に努め、社会教育施設の活用と多様な活動は、宮城県人の特性であ

る勤勉さと協調性、忍耐力を持って、地域住民自身の力を出しあって、協働体制に対応していくことで、社会のためになる、新しい社会教育を創造できると考えると共に期待しています。



## 東北社会教育委員 連絡協議会

### 表彰おめでとぅございます

二十二年度

#### 生涯学習

登米市社会教育委員

佐々木 義 尚



このたび社会教育委員の一員として東北社会教育委員連絡協議会

より表彰を受けることができました。皆さんの暖かいご支援、ご指導のあったことを心から深く感謝申し上げます。

さて、近年生涯学習という言葉をよく耳にするようになりました。これは文部科学省あたりが打ち出した施策の一つで要するに生涯にわたって学習しましょうということですね。生涯学習というものが出てきた背景を考えてみますと一つには日本経済が高度成長をしていた時、人生はモノ、

カナだけではないもっと大切なものを学ぶ必要があるということ、もう一つは人生八十年時代になって老後をよりいっそう心豊かなものにしたという願望も込められたものであったと思います。私などもそうですが義務教育、高校と進んで社会人となり、いざ社会に出てみますと毎日仕事に追われてゆつくり本も読めないのが現実でありました。生涯学習は毎日忙しく過している社会人を含めて、定年退職後やっと本も読める時間ができる、これまでやりたいと思いつながらできなかったこともできるようなった人たちにも意欲をもって勉強しましょうの趣旨で呼びかけたいと思っています。今どこの自治体でも成人学級や老人大学といった講座が開設されています。生涯学習の一つのあらわれだ

と思うのであります。私たちの町でも生涯学習の言葉だけが先行してなかなか実態が伴うところまでいっていません。個人の意識のなかではその必要が高まって受け皿になるものが少ないというのが現状のようです。私たちの町におきましても社会教育委員皆様の意見を参考にいたしました生涯学習を実効のあるものにする方策を考えています。そのためにより知恵なりヒントをお出しただければ幸いです。

最後になりましたが社会教育委員皆様の御指導をお願い申し上げますと共に関係の皆様御健勝をお祈り申し上げます。

#### 「地域の子供達と 仲良しになれて」

栗原市志波姫社会教育委員

菅 原 智恵子



社会教育委員会議の日、小学校の校長先生といっしょでした。先生に中央の会議に出席した時に、



地域の子供は地域で育てるよ  
うにとのお話があった事をお  
話ししました。子供に接する  
にはどうしたら良いか相談を  
しました。

その時先生は、会長さん学  
校に来て子供達に「よさこい  
踊り」を教えてくださいませんか、  
と話されたのです。始めたば  
かりの「よさこい踊り」でし  
たので、びっくりしましたが、  
私達婦人会、商工女性部、農  
協女性部が三位一体で始めた  
事を知っておられたのです。

早速、運動会前に時間調整  
をして頂き、代表6名で指導  
に行きました。三年生から六  
年生までを対象に五日間、子  
供達はたちまち覚えてくれま  
した。今では運動会の二、三  
日前に指導に行くだけとなり  
ました。いつの間にか子供達  
とも顔見知りになり、挨拶を  
交わすようになりました。

昨年退職なさった校長先生  
には、会長さん「よさこい踊  
り」は運動会のプログラムの  
中にはなくてはならない物に  
なりましたよ、とうれしいお声  
をかけて頂きました。同じに  
指導に当たったお仲間にも話  
をして、喜んでおります。現  
在発足して十三年になります

が、ここまで続けてこられた  
事を振り返って見ました。幅  
広い年代層に恵まれた事、若  
い人達の職種が幼稚園の教師、  
公務員退職者、一般家庭人の  
方々であった事も良かったの  
でしょうか。年一回仙台での  
大会を楽しみに、週一回志波  
姫教育センターで幼児から七  
十歳代まで元気にガンバッテ  
おります。

**外 受賞された方**

石巻市社会教育委員  
佐藤 政治

**二十三年度**

「これ」すなわち  
「生涯学習なり」



丸森町社会教育委員  
菊地 成孝

3月11日の  
大震災から丸  
一年を迎えま  
した。甚大な  
被害に合わせ  
た方々にお悔やみとお見舞い  
を申し上げます。一日も早い  
復興をご祈念申し上げます。

この度、東北地区社会教育  
委員連絡協議会より表彰を受  
けましたことは有り難く、皆  
様方のお陰と深く感謝申し上  
げます。

当初、私は「生涯学習は、  
間口が広く奥が深いもの、取っ  
付き難いものと思っていまし  
たが、委員として携わる中で  
老若男女が五体を動かすこと  
が、「これ」すなわち「生涯  
学習なり」と自称するように  
なりました。

私自身としては、ボランティ  
ア活動、健康の推進、食育な  
どに携わってきました。

ボランティアとして、高齢  
者のお茶飲み会や学習会など  
の場で、相棒の在郷太郎と供  
にお届けする腹話術で皆さん  
に楽しんでいただいています。  
また、町の健康づくり計画  
「健康現役丸森大作戦21」の  
作成に携わり、その後の計画  
実行にも関わり、町民の健康  
づくりに努めています。

地域や保護者の方々の協力  
を得て、保育所の児童を対象  
に食育活動に取り組んで五年  
になります。グラウンドの片隅  
に畑を造り、野菜の種をまき、  
苗を植え、虫取りや水やりな  
どの管理を子どもたちは率先

してやるようになりました。  
秋の収穫祭では、野菜の収穫、  
水洗い、調理などを指導、地  
産地消を唱え、皆で美味しく  
いただきました。「好き、嫌  
いなく食べるようになりました  
」と喜ばれていました。食  
育活動が軌道に乗りつつあっ  
た昨年、原発事故による放射  
能を考慮し、保育所の畑から  
収穫した野菜は子どもたちに  
食べさせないことになりました  
。放射能については、風評  
被害もあり困惑するばかりで  
す。

今後も、関係者の方々のご  
指導を仰ぎながら任務を全う  
したいと思っています。

**天災・人災の中から  
社会教育の力とは？**



村田町社会教育委員  
吉田 富次男

平成二十三  
年三月十一日  
の東日本大震  
災から早くも  
一年の月日が  
たちましたが、やっと復興の  
緒に就いたばかりといったと  
ころなのではないでしょうか。

ですが、福島原発周辺は長  
期の封鎖が予測され、まだま  
だ復興どころではなさそうで  
す。地震、津波など自然災害  
や原子力災害等の人災によっ  
て失ったものは、余りにも大  
きくて、そこに住む人々の深  
い悲しみや苦しさは、私たち  
の理解を超えたものでした。

犠牲になられた方々に対し哀  
悼の意を捧げるとともに、心  
よりご冥福をお祈り申し上げ  
るばかりです。私はこの間、  
ずっと無常観に苛まれ、宗教  
の本などを読んでみましたが、  
浅学故に憤ることばかりでし  
た。ただ道元禅師の「典座教  
訓」の中に出てくる三つの言  
葉に出会い何度も読み返しま  
した。それは、「喜心」「老心」  
「大心」で心のありようを説  
いたもので、私の心にすんな  
り入って来ました。

さて、社会教育とは何かと  
問われても、対象としてあま  
りにも広範な年齢層を抱えて  
いて明確な答えを用意してい  
る訳ではないのですが、平常  
時でないこのような時の提言  
はどうあるべきか悩むところ  
です。住民の生きる手立とし  
て、生涯に渡って学習する機  
会を提供していくのが社会教



板垣 実

大崎市社会教育委員

### 「社会・人に役立つ 喜びを持ち、生活に潤 いのある社会を作ろう」

東北地区社会教育連絡協議会より栄誉ある表彰を受け、誠に有難

育かもしませんが、この不安な時代の中では住民にもっと寄り添ったところから問題提起することになるのでは

う。生活のリズムを崩されたたくさんの方々が平穏な時間を持つことが出来るのはいつの日か、社会教育の現場に携わる先生方には辛抱強く見守り、寄り添って欲しいものです。人の心は、ガラスにも、発電所にもなりませんので期待したいと思います。

最後にこの度、東北地区社会教育委員連絡協議会より表彰を受けましたことに感謝申し上げます。今後とも地域の社会教育のため努力して参ります。ありがとうございます。

うございます。

3・11の東日本大震災があり、宮城県開催の東北地区社会教育研究大会は中止となりました。残念な事ですが、大地震、大津波、原発事故による放射能により、東北各県は大きな被害を受け、実施は不可能でありました。

宮城県社会教育委員研修会は、十一月に東北大会に代わるものとして実施しました。この事は、社会教育に対する継続性と災害の痛みを越えて、人々の絆を大切にする地域社会の協力を深め、新しい地域社会の可能性を導いたと思います。

先日、南三陸町、雄勝町、石巻市、女川町を、又、仙台荒浜、名取市、巨理町、山元町、新地町、相馬港まで、沿岸を回りました。田畑に大きな船が置かれていたり、瓦礫の山が高く幾つもありません。復旧、復興はまだまだの様です。

大崎地区社会教育委員研修会を色麻町で開催しました。

小・中一貫校を準備し、同時に協働教育プラットフォーム事業として「こどものまちづくり」を進めています。地域

住民は「地域全体で、子どもの個性と成長を信じ、ゆっくりに、ゆっくりに育てよう」と応援しています。

大崎市では、十三の地区公民館の指定管理に関する合同調印式を行い、地域が主体となって自由に運営することになりました。

これまでの社会教育は、地域住民に学習や交流の場を提供してきました。これからは、全ての人が居場所と出番を与え、人に役立つ喜びを持つ社会を作り出し、そのから活発な経済活動が展開され、生活に潤いのある地域社会を作り出すことが大切だと思います。社会教育委員として、地域の信頼性や教育力の向上発展に努めたいと考えています。

### 「東北地区社教連 表彰を受けて」

大崎市社会教育委員

高橋 俊一



この度、東北地区社会教育委員連絡協議会より板垣会長共々表彰

を受けまして、大変有り難く感謝を致しております。

旧田尻町時代に、宮城県青少年健全育成に力を注ぎ、自分自身も柔道スポーツ少年団の指導者として三十有余年活動をしてきました。この間、子供たちの移り変わり、学校環境の移り変わり、又親たちの考え方の移り変わりを見てきて、時代の流れと言ってしまうと変わったものだなと思えます。

私はスポーツと言えば柔道しか知らない者で、お陰さまで数多くの子供たちと接することが出来、私の人生の宝物と思っています。礼儀作法を教えていて、立ち方座り方を教えていると、傍らで見ている親たちが「立ったり座ったりするのにそんな作法があったなんて初めて聞いた」と、又練習中に何度言っても言うことを聞かない子供にげんこつをやったら、ニコニコしながら側に寄って来る、「何だ」と聞くと「俺生まれ初めて初めてげんこつ貰った、うれしいから先生もっと殴って」と言われた時はさすがに驚きました。

近年この農村地帯で、農地・水、環境整備事業に取り組み、子供たちと花を植えたり、水路に集まり生き物調査をしたり、今まで見てはいたけれども名前も知らない草花や生き物を発見して、子供たちと一緒に感動しています。

社会教育というと、間口が広くて何から手をつけたらいいか迷いますが、自分の身近で出来る事から参加をし、肩肘張らず一緒に行動するのが一番の近道ではないでしょうか。

私は将来を担う子供たちが可愛いし、遅く頼もしく思います。青少年の健全な成長を願い、微力ながら地域に根差した活動を今後とも続けて行きたいと思っています。

### 結(ゆい)と読む 言葉の大切さ

松島町社会教育委員

高松 力男



平成九年に松島町社会教育委員に委嘱をされて以来 今日まで微力ではあります社会教育推進

のため自分なりの努力を重ねておるところであります。昨年十一月十一日に東北地区社会教育連絡協議会長さんより表彰状を頂き誠にありがとうございました。

このたびの受章は松島町教育委員会、そして各社会教育委員皆様方のご指導とお支えがあったればこそ賜と心よりの厚いお礼と感謝を申し上げます。

私の生家は農家で小学生の頃、今は亡き両親から「結ゆい」と言う言葉を覚えておきなさいと言われたことを思い出します。

結びつきを深めお互いに助け合う、そして支え合うとの意味だと記憶しております。現在、私の住んでいる行政区は松島町立第一小学校のある地域です。表題の「結」にちなんだ一つの行動について記したいと思えます。

それは今でも頭の中にまざまざと蘇って参ります昨年三月十一日に発生した本当に想像を絶するあの東日本大震災の地震よっての断水、そして停電、電話等の音信不能、交通手段の途絶等全ての面で生活への大きな混乱が生じま

した。特に水道が止まりどこに行けば水が手に入るのかが一番の懸念の種でした。

しかし私達の地域の皆さんは一致団結して天候の良し悪しに関係なくハンディマイクで「間もなく給水車が何時何分頃どこそこに参りますどうか隣り近所の方々に声を掛けあい集まって下さい。給水量は一人六リットルです」との広報を一日に何回となくして頂きあの厳しい状況を乗り切ることが出来ました。

改めて世代間を越えた人と人そして地域の結びつきの重さを知ることが出来ました。最後に少子高齢化が一段と進む中いかにして地域間での親睦と支え合い、触れ合いの機会を一つでも多くつくって行くことが社会教育推進の一助につながって行くのではないかと私の私なりの考えを申し上げ表彰のお礼とさせていただきます。ありがとうございます。

### 「来し方を顧みて」

松島町社会教育委員  
村山善志



☆東北地区社教連の菅原敏元会長より表彰された。これを契機に、

私の委員としての来し方を見ると、最初は委員の会議に出席し、手詰まりと面はゆさどが、鮮明に記憶に残る。

そこで、社会教育法、松島町の関連条例、関係図書を読み、委員として何とか活動できる様になった。

翌年、委員長長の役を任せられ、会議の座長としての不手際で、暗中模索の状態が幾度か続く。委員の一部に、会議に出席するだけで、始めに結論あり、賛同するのみ、意見が少ない。

当時の社教界では、「委員の活性化」が叫ばれていた。これに合わせるかの様に、県社教推と県社連との共催で研修会があった。演題は「社教委員としての在り方」、大正大学教授蛭田道春氏の講演の主旨は、「委員の活動が活発

に行われている所では、社会教育が盛んである。」と聞き、力を得て、会議の中で研修報告をした。

その頃、私は座長である事に苦杯をなめていた。私が燃えなければ、そこで、これまで提案された事項で、委員の活動活性化に關した事と、愚見を添え、コメントした。

「おだいもくに終わらせず、知行合一する」様、協力を願った。提案事項を列挙すると、○委員の職務の再確認、○委員自ら活性化を自覚、○委員も事業講座等に参加、○委員が事業講座を参観、○委員が事業講座の計画案を提出、○委員が事業を実施するに挨拶の実践、○委員が提案事項をレポート、○会議資料の配付を当日前に、町民のニーズを共有する情報交換、等々。しかし、一度では話がまとまらない。回を重ねたが積極的な協力が乏しい。

委員の誰かが呼応してくれば。徐々に、全員に波及する事を信じ待った。その兆しがあった。今では、諮問に対し、豊かな識見のある意見と、創意に満ちた発意が頂

けるようになった。自慢話をしていのではない。良い事、悪い事、の事実を提起した丈である。委員全員で、意見が低調な頃を乗り越えた。

☆研修会や視察会に、私を毎年出張させて下さった。管内社教連の理事視察研修会・管内社教連総会時の研修会・県社連研修会と。殊に、県内外の社教関係の先進地の施設設備事業等と、松島町の施設設備事業等とは、規模の大小はあるものの、全く欲目なく、冷徹な目で見て遜色がない。委員の会議も今は、全員発言を標榜し、努めている現状である。

☆委員の会議を含め、社会教育(生涯学習)の充実と発展のため、行く末を見通した英明な決断で希望の未来の実現に、孜孜として創造したい。  
※東北地区表彰についての愚見、褒められれば大人も嬉しい。表彰規程第五条を廃止し、委員は〇年経験者全員表彰(額縁無)。これを可能にするのは、現会長の力量に頼る外ない。受彰者の「志気の高揚」で、社会教育の発展が東北六県に溢れると思う。「論語」：君子は、人の美を

二十四年度

「模索しながら」

角田市社会教育委員

鎌田 三千子



この度、東北地区社会教育研究大会の席上、表彰状を受賞すると

いう身にあまる光栄に浴しましたことは誠にありがたく、心より厚くお礼申し上げます。

この度の受賞は、永年共に歩んで参りました会員の皆さま、先輩の方々のご指導、ご支援のお陰であると、深く心に受けとめており、誠に感謝にたえない次第でございます。私は、社会教育は各種団体等による自主活動が基本であると考える、その実践として、地域婦人会の活動を続けてまいりました。いつも社会教育委員としての役目・活動については思い倦ねていますが自分達ができること、そして、やらなければならないことを

成し、人の悪を成さず。小人は、是に反す。

仲間と一緒に時代のニーズを捉えた課題に向き合いながら、続けてきております。

今から十年前のことです。当時の生活は豊かで快適でした。一方では海や川を汚す原因の六〇%以上が生活廃水、中でも米のとぎ汁は、栄養分が多いため大きな役割を占めているということを知り、大きな衝撃を受けたのです。

「地域を汚すのも、美しくするの人間、汚してしまつた部分を少しでもきれいにし、後世に残したい」と、「台所からきれいに」をモットーに水の浄化推進へと一歩を踏み出したのです。

研修会を開き、EM(有用微生物群)について学びました。EMはあらゆる環境を良くし、生活の中で活用することで、身の回りの環境を整え、自然環境を保護するというお話しでした。私たちは、早速、米のとぎ汁EM発酵液を作り、活用してみました。すると「台所の生ゴミ入れのぬめりが無くなった」「下水に流したら悪臭が消えた」等、発酵液の効果がわかり、EMの威力を実感したのです。

水質浄化活動はエネルギー

シュに広がり、今では、市内の小・中学校が、プール掃除や河川の浄化でEMの効果を実感しています。

これからも、これまでの活動にとどまらず各種課題に対する意識を持って、学校、行政、地域と連携し、模索しながら、地域づくりにつとめてまいりたいと思います。

石巻市社会教育委員

佐藤 嘉信



石巻健康センター・あいプラザ・石巻で、趣味、教養、健康など

の色々な講座を開設しています。社会教育委員の立場上、青少年の健全育成のために、何か役に立てる技術が欲しいと思い「読み聞かせ講座」を受講しています。読書を通じて小中学生へ、読書の面白さを知って欲しいと思いました。読み聞かせの講師先生は、三国裕子先生という方です。三国先生は演劇の演出、読書の方法など多方面で活躍され

ています。たまたま石巻市内に「夢まき座」という演劇団が旗揚げしました。その团长宮城利史子さんと三国先生が懇意にしている、昨年十一月十一日演劇「石の心臓」を、市内河北町のビッグバーンで午前と午後の二回旗揚げ公演しました。

読み聞かせ講座の三国先生は、夢まき座の主催者の一人でありましたので、演劇の役者選びにも関与しており「石の心臓」の準主役のマイケル爺さん役を指名され、気楽に引き受けました。

経験したことのない素人が、入場料をとって興行する演劇の準主役を演ることになったのですから、大変な苦労を体験することになりました。四二〇人の客席は、二回の公演共にほぼ満席となり、しかも大好評でした。読み聞かせの方法、演劇の役者としての体験、これらは今後どのような方法で、青少年の健全育成に役立てることが出来るか、その場面造りが大変と思います。北上町の柔道協会を創設したのが昭和四十九年、公民館の職員として、ジュニアリー

ダー活動、趣味の愛好会活動など、現職でやっていたころは苦勞も多かったけれど楽しかった。それらの体験を今後どのように生かしてゆくか、読み聞かせ講座の受講生と共に実現に向けてあらゆる機会を模索していきたいと思っております。八月四日には読み聞かせの受講生の発表の場が設定されているので、今はその練習中です。

一人一人の体験の場は狭く、小さいけれどそれらの経験は話し合いの場で発表することによって、将来に向けて貴重な意見として集約されていくと思えます。

どのような方向に進んでゆくのかわかりませんが、今居る場を大切にしたいと思う。この会報の趣旨に合うかどうかわかりませんが今は、思いつくままに発表することになりました。